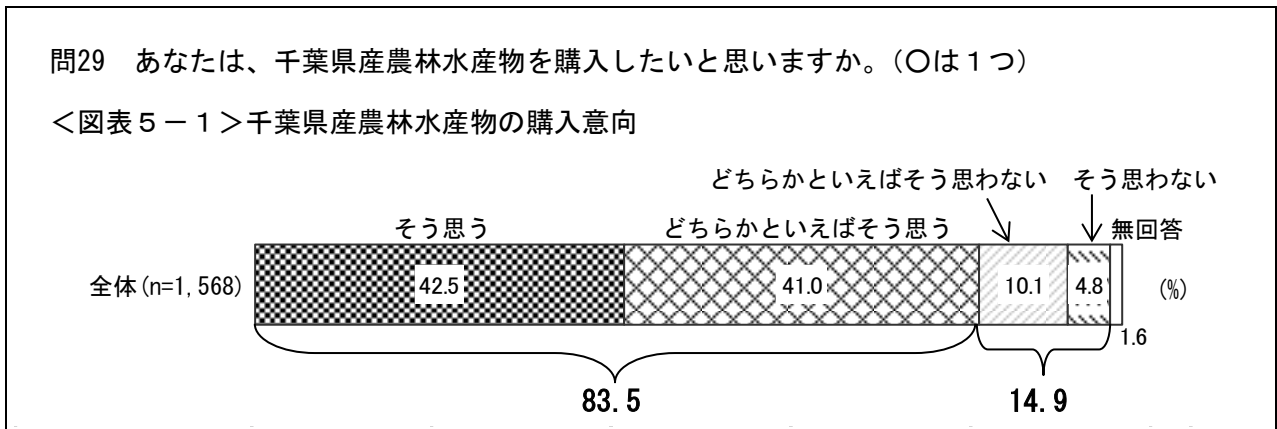


5 千葉県産農林水産物について

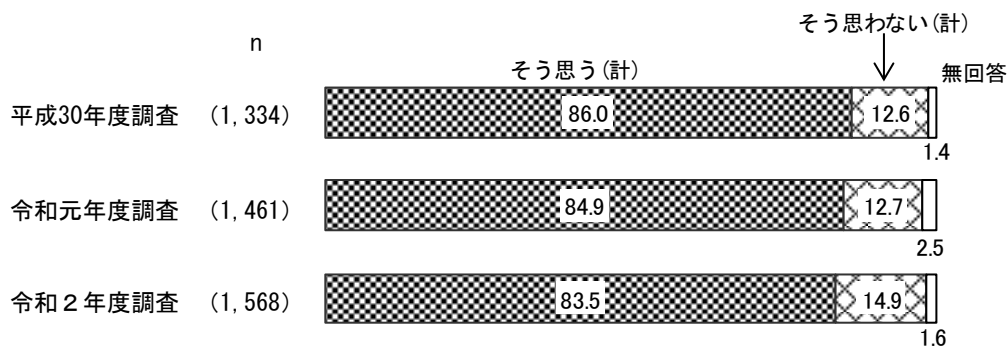
（1）千葉県産農林水産物の購入意向

◇『そう思う（計）』が8割台半ば



千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」（42.5%）と「どちらかといえばそう思う」（41.0%）を合わせた『そう思う（計）』（83.5%）が8割台半ばで高くなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（10.1%）と「そう思わない」（4.8%）を合わせた『そう思わない（計）』（14.9%）は1割台半ばとなっている。（図表5-1）

〔参考〕平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

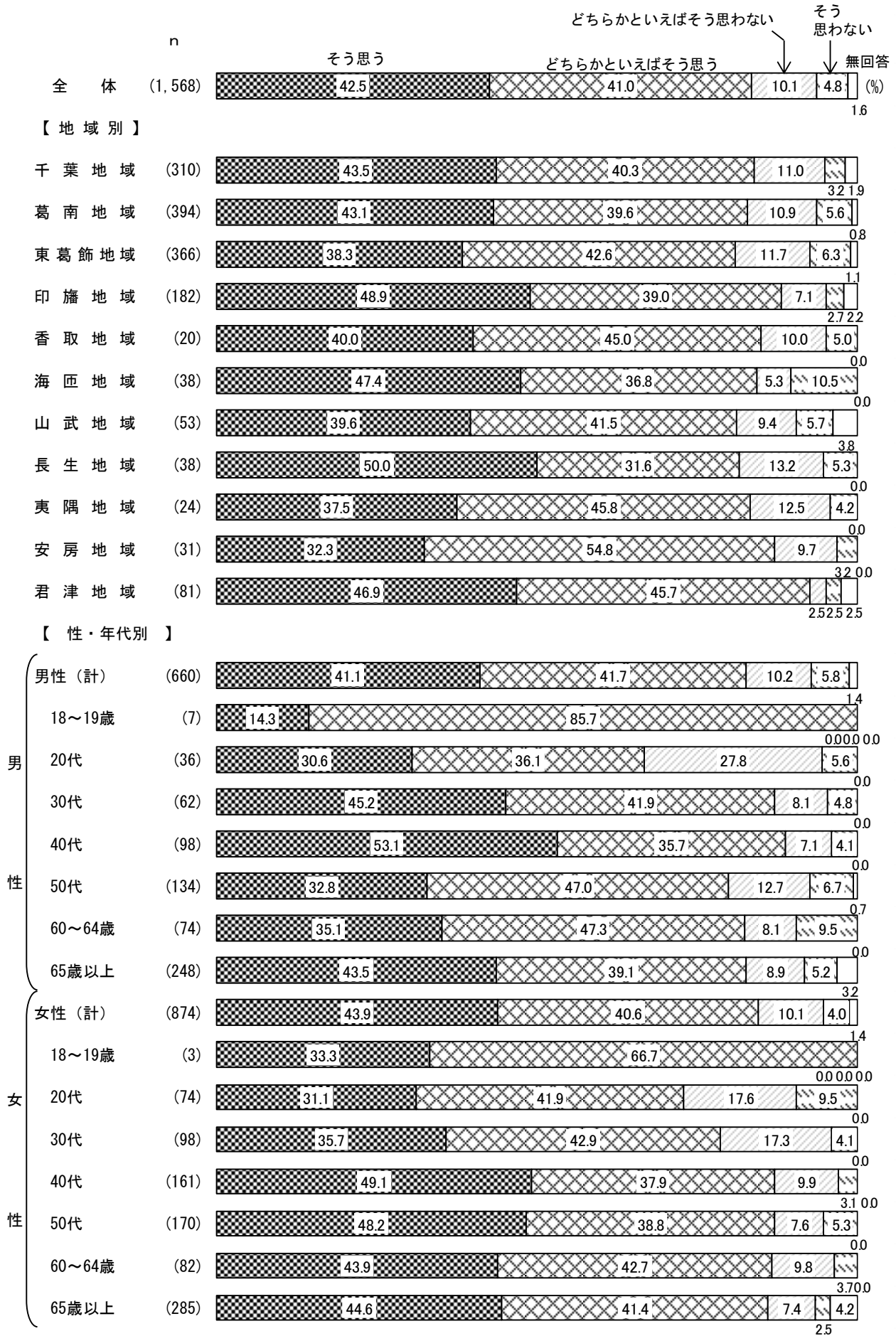
地域別にみると、『そう思う（計）』は“君津地域”（92.6%）が9割を超えて高くなっている。

（図表5-2）

【性・年代別】

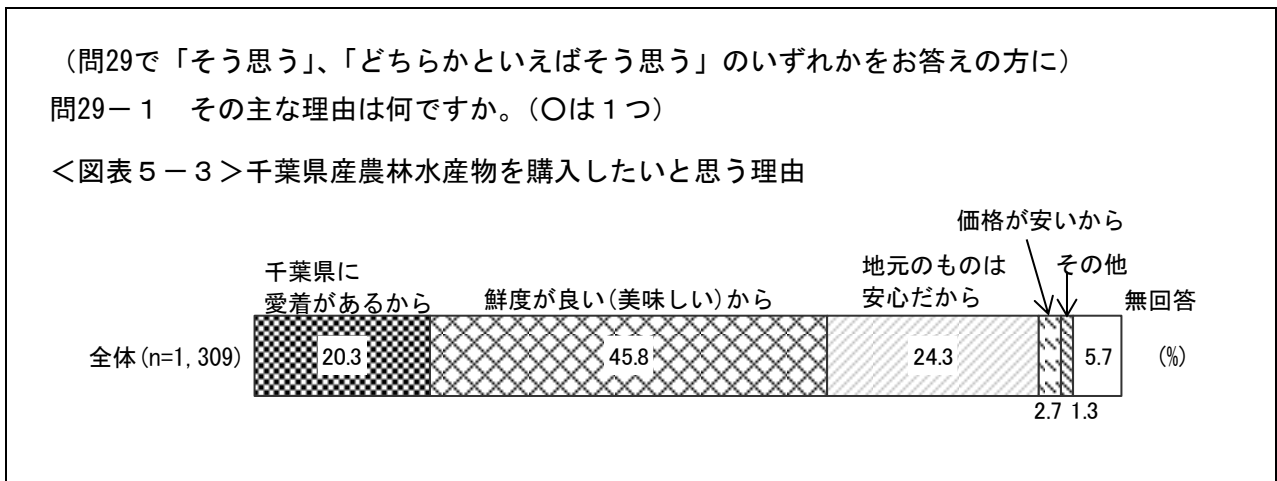
性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は男性の20代（33.3%）が3割を超え、女性の20代（27.0%）が約3割で高くなっている。（図表5-2）

<図表5-2>千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



（1-1）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

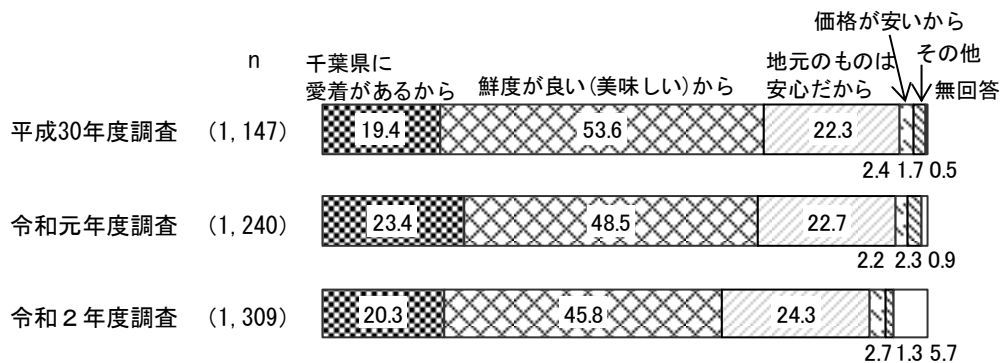
◇「鮮度が良い（美味しい）から」が4割台半ば



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,309人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（45.8%）が4割台半ばで最も高く、以下、「地元のもの安心だから」（24.3%）、「千葉県に愛着があるから」（20.3%）、「価格が安いから」（2.7%）が続く。

（図表5-3）

【参考】平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「地元のもの安心だから」は“東葛飾地域”（30.1%）が3割で高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は“千葉地域”（25.4%）が2割台半ばで高くなっている。

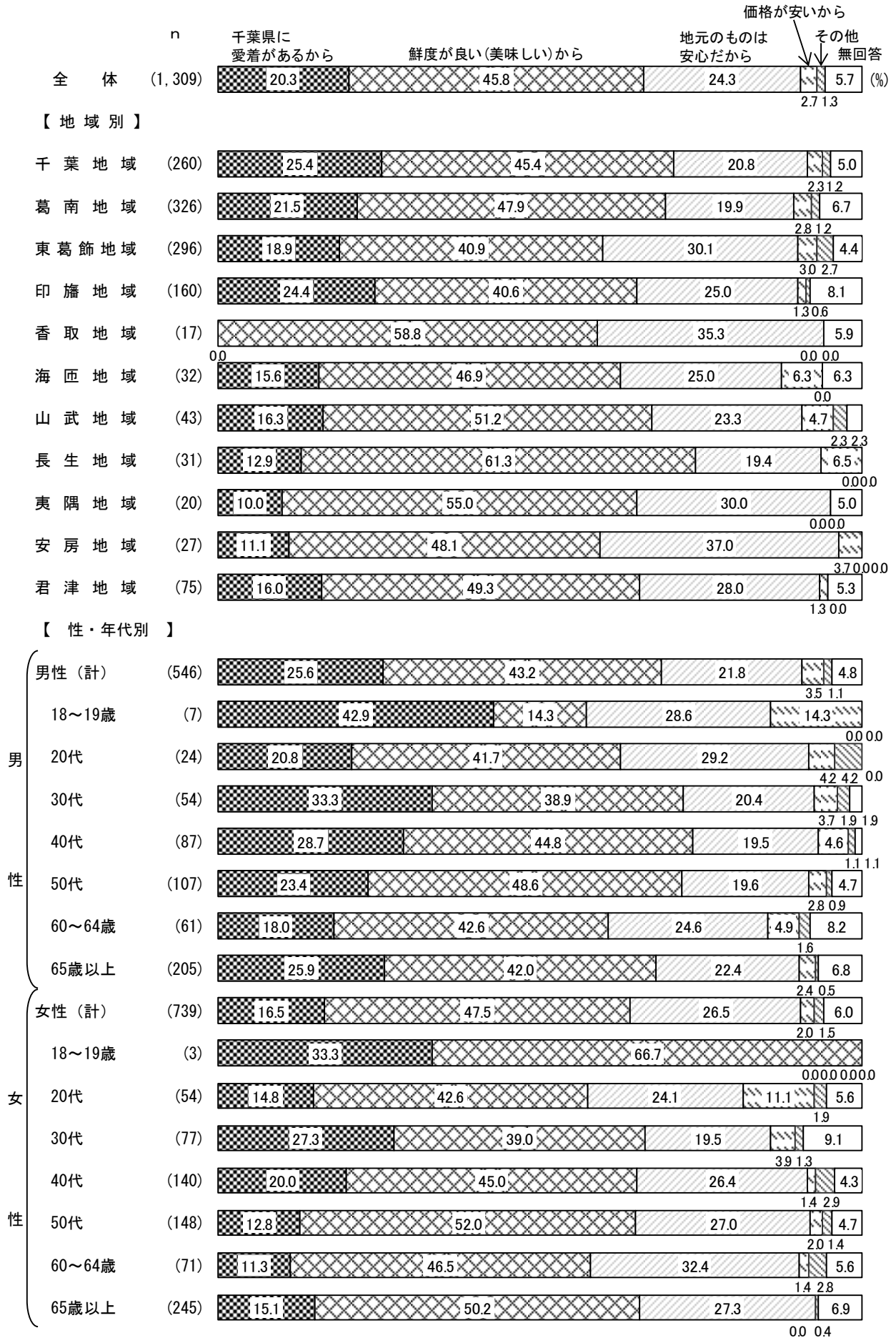
（図表5-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県に愛着があるから」は男性の30代（33.3%）が3割を超え、男性の40代（28.7%）が約3割、男性の65歳以上（25.9%）が2割台半ばで高くなっている。

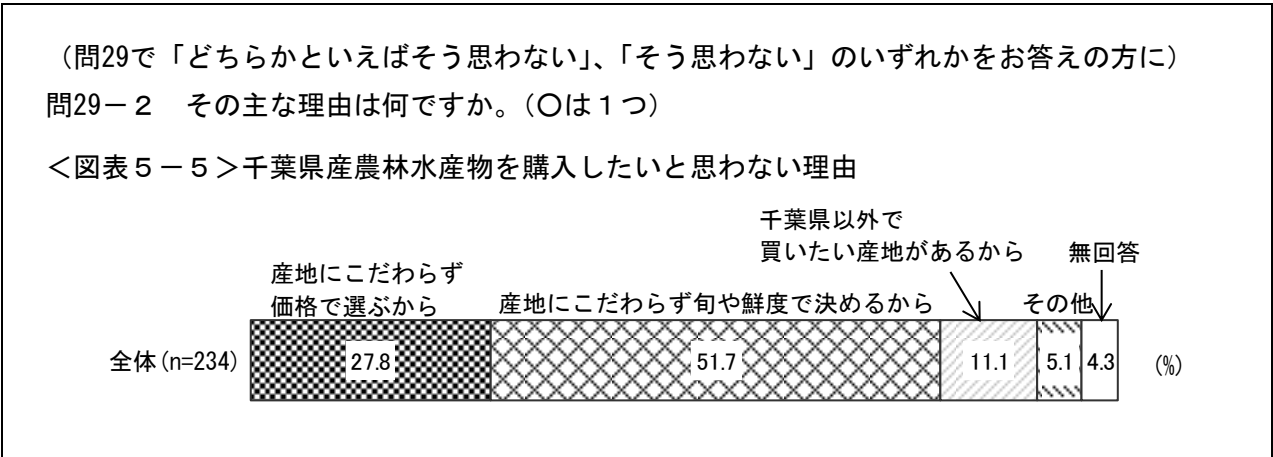
（図表5-4）

<図表5-4>千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別



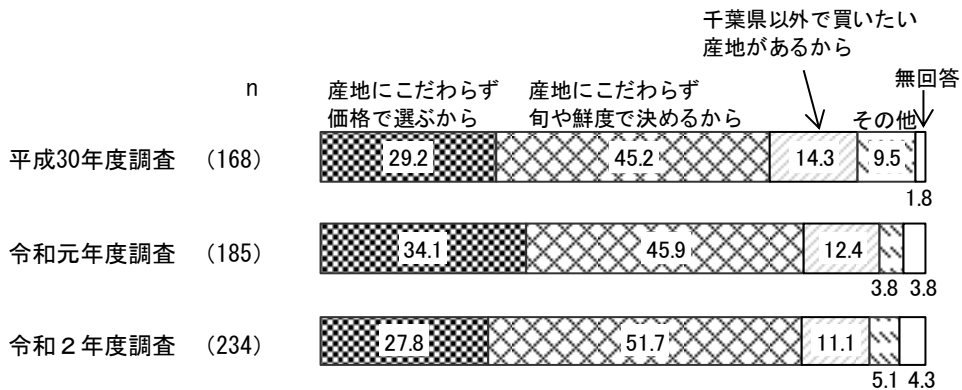
（1－2）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」が5割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した234人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（51.7%）が5割を超えて最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（27.8%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（11.1%）が続く。（図表5－5）

〔参考〕平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

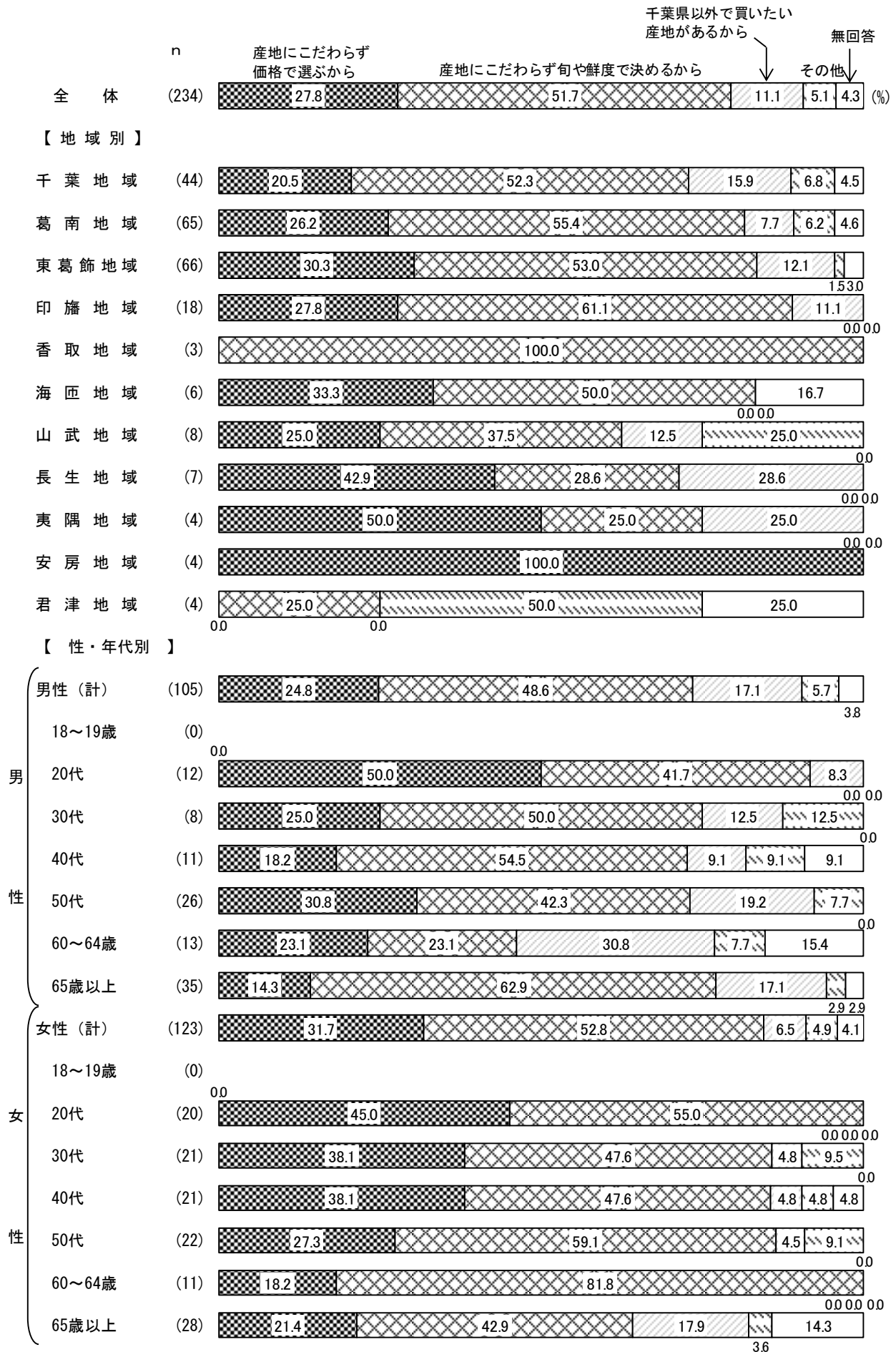


※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8ページ「報告書の見方（6）」を参照）

（図表5－6）

<図表5-6>千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



（2）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が約5割

問30 千葉県には、農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度があります。あなたは、以下の農産物や制度について聞いたことがありますか。

（〇はいくつでも）

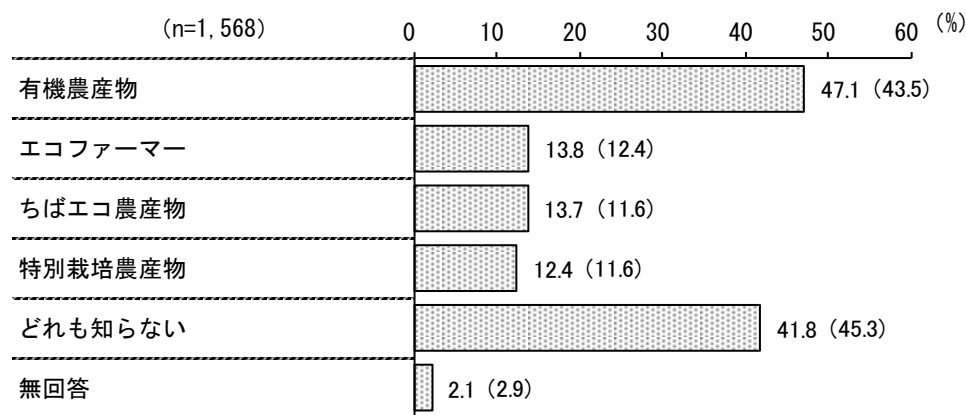
※「ちばエコ農産物」：県の基準に基づき化学肥料・農薬を通常の1/2以下で栽培し、県が認証した農産物

「有機農産物」：JAS法に基づき化学肥料・農薬を使わず栽培し、登録機関で認定された農産物

「特別栽培農産物」：国のガイドラインに基づき化学肥料・農薬を通常の1/2以下で栽培し、生産者が定める責任者が確認した農産物

「エコファーマー」：持続性の高い農業生産方式の導入計画を作成し、県が認定した農業者

＜図表5-7＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,461

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(47.1%)が約5割で最も高く、以下、「エコファーマー」(13.8%)、「ちばエコ農産物」(13.7%)、「特別栽培農産物」(12.4%)が続く。(図表5-7)

【地域別】

地域別にみると、「有機農産物」は“印旛地域”(56.0%)が5割台半ばで高くなっている。

「エコファーマー」は“印旛地域”(20.9%)が2割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は“海匠地域”(36.8%)が3割台半ば、“安房地域”(29.0%)が約3割、“山武地域”(26.4%)が2割台半ば、“君津地域”(22.2%)が2割を超えて高くなっている。

(図表5-8)

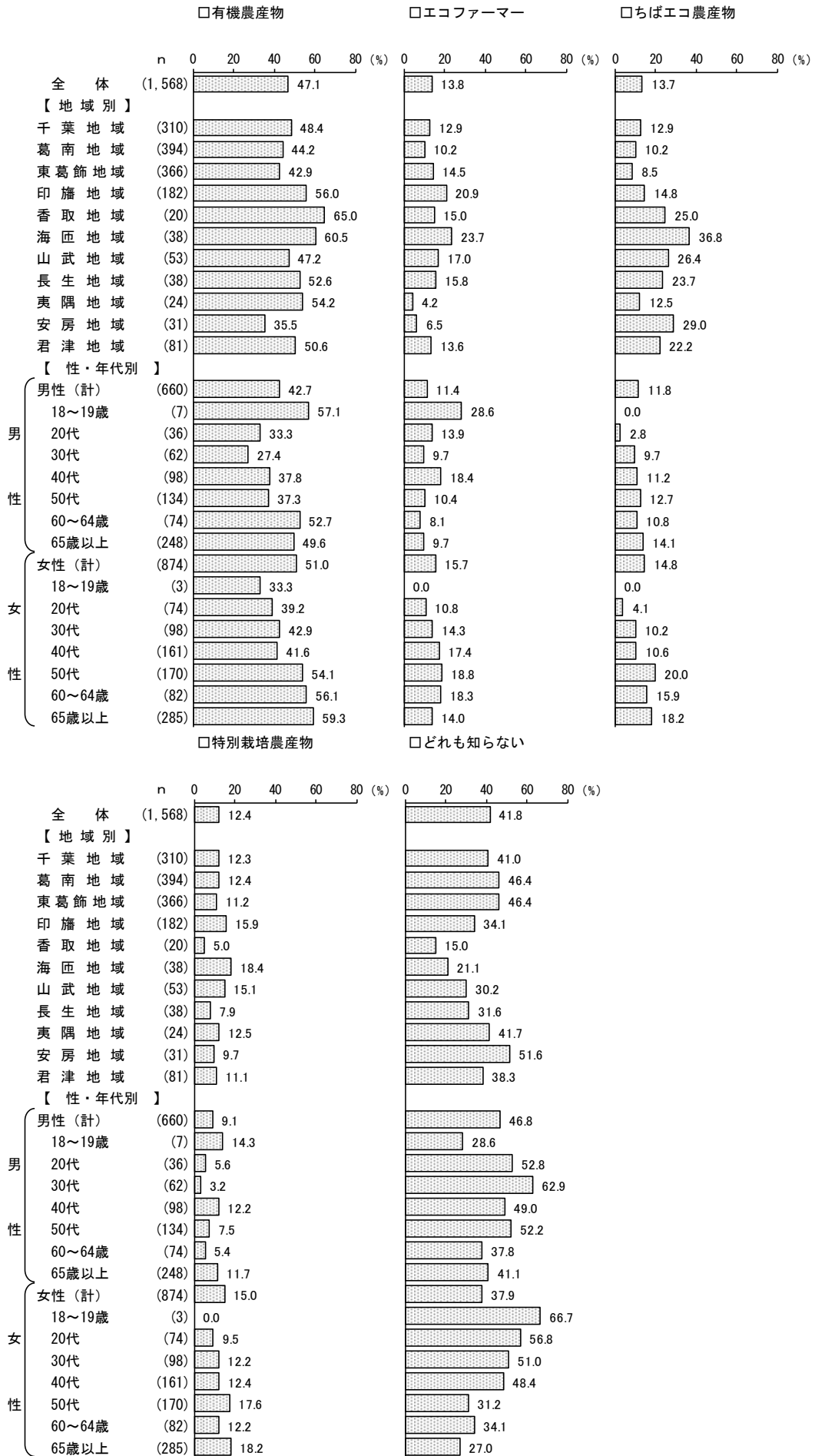
【性・年代別】

性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の65歳以上(59.3%)が約6割で高くなっている。

「エコファーマー」は女性の50代(18.8%)が約2割で高くなっている。

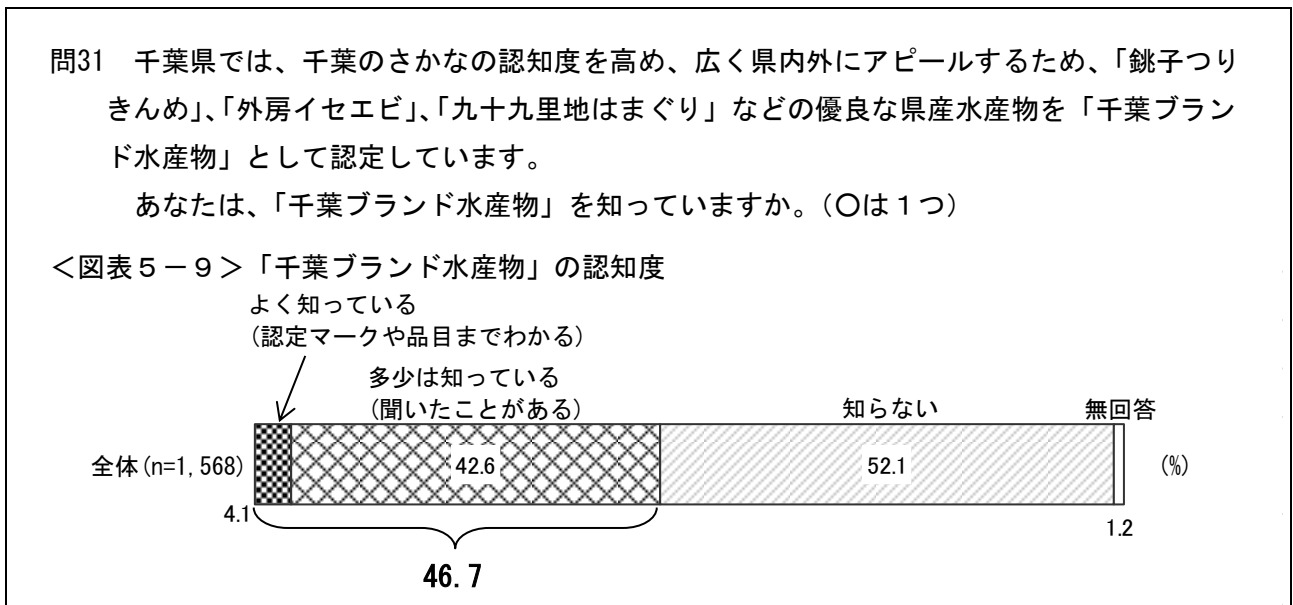
「ちばエコ農産物」は女性の50代(20.0%)が2割、女性の65歳以上(18.2%)が約2割で高くなっている。(図表5-8)

<図表5-8>環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別



（3）「千葉ブランド水産物」の認知度

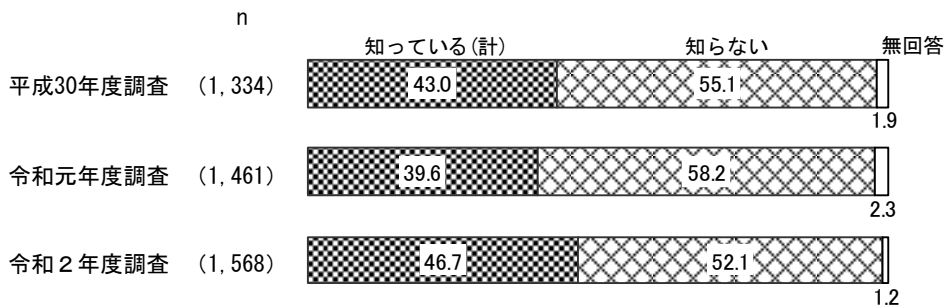
◇『知っている（計）』が4割台半ば



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（4.1%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（42.6%）を合わせた『知っている（計）』（46.7%）が4割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（52.1%）が5割を超えている。（図表5-9）

〔参考〕平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“海匝地域”（84.2%）が8割台半ば、“安房地域”（74.2%）が7割台半ば、“夷隅地域”（70.8%）が7割で高くなっている。

一方、「知らない」は“東葛飾地域”（61.5%）が6割を超え、“葛南地域”（58.6%）が約6割で高くなっている。（図表5-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の65歳以上（60.4%）が6割、男性の65歳以上（56.9%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の20代（78.4%）が約8割、男性の20代（69.4%）、男性の30代（67.7%）、男性の40代（67.3%）、女性の30代（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表5-10）

<図表5-10> 「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別

